

結碧沖繩

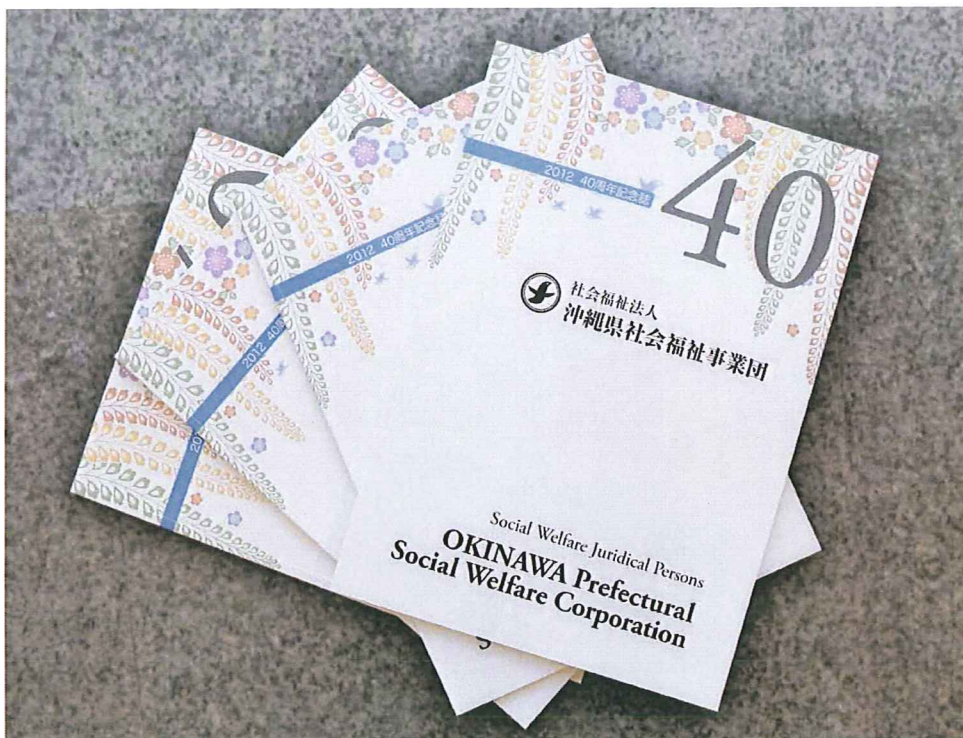
第 61 号

編集・発行



社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団
〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1
TEL 098-884-3173 (代)
FAX 098-882-5688

電子メールアドレス : o.fukushi@okinawa-j.jp ホームページ : http://www.okinawa-j.jp/



新年度あいさつ

理事長 花城 可長
はなしろ かちよう

多くの課題を抱えながら12の社会福祉施設の経営に当たってきた当事業団も昨年40周年の節目の年を迎えることができました。この間、当事業団の経営に携わってこられた役職員を始め、ご協力、ご指導いただいた多くの皆様に心から感謝申し上げます。

今年度は、第2期の経営計画（平成25年度～平成29年度）がスタートする極めて重要な年度でもあり、心機一転、新たな一歩を踏み出す気持ちで事業団各施設の経営に当たる考えです。

新計画では、これまでの経営理念である利用者へのサービスの質の向上、経営基盤の強化、地域への貢献を基本に据え、新たに経営目標として「利用者に対する姿勢」「社会に対する姿勢」「人材に対する姿勢」「マネジメントにおける姿勢」を掲げています。これまで以上に良質な福祉サービスの提供や社会・地域への貢献を目指すとともに、それらを担う人材の育成及び経営基盤の強化を図るなど、より充実した施設経営を行っていく考えです。

今年度は、その他、老朽施設の改築（よみたん救護園の全面改築、うるま婦人寮の単身棟の改築）に取り組み、安全で快適な生活環境の整備に努めます。あわせて八重山圏域の福祉ニーズに対応するため、八重山厚生園に短期入所生活介護事業として現在の8床に加え、7床の増床を予定しています。また、当事業団が行う全ての業務を適正に遂行するため、法令遵守の徹底についても、これまで以上に力を注ぐ考えです。

第2期の経営計画がスタートする重要な年度に、これまでの施設経営をしっかりと見つめ直し、これからの事業団が、なお一層充実発展していけるよう全職員挙げて取り組んでいく所存です。

実践活動発表会を開催

当事業団の施設における日頃の利用者支援や、運営管理等についての実践の成果を発表することで、各施設の活動を理解してもらうと共に職員の創意工夫力を高める事を目的に平成24年1月25日に那覇市で開催しました。各施設の職員及び理事併せて135人の参加がありました。

特別講演として、ラジオ沖縄の地域の歴史散策等の番組パーソナリティーを務めておられる赤瓦ちよーびん氏をお招きし、「沖縄行事なぜ？なに？」の題材で講演して頂きました。日頃各施設において行っている年中行事について、その意味や由来を知ることができ、利用者とのコミュニケーション手段の一つとして知識を得る事ができたのではないかと思います。



実践活動発表会での発表は次のとおりです。

- ① 事故のない日々をめざして
 ↳ヒヤリハットの取り組み4年間の実績
 医療型障害児入所施設 沖縄療育園
 看護師 与那嶺 善昭
- ② 児者併設となったあけぼの学園
 ↳歩み寄りの心をめざして
 ↳歩み寄りの心をめざして
 障害者支援施設 あけぼの学園
 生活支援員 宮里 幸代
- ③ 集団ケアからグループ化へそして個別ケアへ
 介護老人福祉施設 名護厚生園
 介護員 山入端 千春
- ④ 個別排世ケアの質の向上
 ↳各職種からの多角的なアプローチによる取り組み
 介護老人福祉施設
 介護員 若林 宏明



発表会の後には、質疑応答がおこなわれ、他施設の現状やこれからの課題等を共有することができました。

福祉施設長専門講座を受講して

救護施設 いしみね救護園

園長 竹田 陽一

管理者としての専門知識や人間的魅力を少しでも高められたらと思いい本講座を受講してきました。

内容は、経営管理、サービス管理、人事・労務・財務管理等で構成され「講義と演習の受講」「研究レポート作成」による学習でした。

指導講師は、社会福祉法人の理事長や大学教授、公認会計士、弁護士等それぞれの立場でご活躍されている先生方で新しい考え方を沢山学べました。

特に財務諸表を「問題発見」「業績管理」「経営意思決定」「経営戦略実行」のための会計として分析し、経営を判断する「管理会計」の考え方や利用者支援のあり方を考えていく上での「限界への対応」等に興味を持ちました。

コスト主義に陥りやすい現状の中で「付加価値額」が大きくなる施設運営に目を向け、受講させて頂いた事務局及び当園の職員に感謝し、本講座で学んだ事を利用者・職員にフィードバックして参ります。

上級リスクマネジャー養成講座を受講して

養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園

副園長兼管理課長 平良 吉昭

平成25年2月13日〜15日の3日間、上級リスクマネジャー養成講座(全国経営協主催)を受講しました。本講座は初級リスクマネジャー養成講座修了者を対象に施設が行うべきリスクマネジメントへの理解を深め、取り組み強化を図ることが目的です。

講座内容は、福祉サービスのリスクマネジメント基本的視点、取り組み要点と体制作り、苦情解決や事故発生時の対応、介護事故を巡る法的な整理についての講義やグループ演習等が行われました。

講義の中では、社会福祉基礎構造改革で措置から契約へと移行し、利用者の権利意識の高揚に伴い、施設は苦情や法的賠償責任の対応に備え、事故防止対策を中心とした危機管理体制を確立してきました。しかし福祉のリスクマネジメントが多様化した今日では、通常の企業活動(顧客満足を目指す、手順書を標準化する、苦情を業務改善に生かす等)から学ぶ発想の転換が必要であるとのことでした。

講座を受講して、施設リスクマネジメントの取り組みを支えるためには、管理者の責任ある関与と職員の気づきの感性を高めて「サービスの質」を継続的に改善していくことが重要と痛感しました。

新会計基準移行に向けての
研修会を開催

事務局 経営管理課

事務員 中本 信次

社会福祉法人が行うすべての事業を対象とした新たな会計の基準が平成23年7月27日に制定され、すべての社会福祉法人が平成27年度までに新基準へ移行することとなりました。

当事業団においては、平成25年度の移行を円滑に進めるべく各施設の会計責任者、出納職員を対象とした「新会計基準移行準備研修会」を平成24年度、3回にわたり開催致しました。

第1回の研修会には税理士を講師として招聘し、新基準の基本的な考え方、主な改正点、新たに導入される会計手法について講義を行っていただきました。

第2回、第3回の研修会には、新たな勘定科目の説明、予算の策定、拠点区分を単位とした会計処理等について事務局から説明を行い、

会計責任者、出納職員からは活発な意見、質問が相次ぎ、移行に向け職員個々のモチベーションの高さを実感し、有意義な研修会を終えることができました。



障害者虐待防止・権利擁護研修に
参加して

医療型障害児入所施設 沖縄療育園

児童指導員 池原 英高

平成24年の10月1日から「障害者虐待の防止、障害者の養護者に関する法律」が施行されました。この法律では、虐待の起こる場所を家庭内に限定せず、福祉施設や職場も想定し、養護者や福祉施設の職員、職場の上司等も

想定範囲に含めた対策の必要性が明記されています。平成12年より児童や高齢者、DV防止法などが制定されており、障害福祉の分野においても時間は掛かりましたが、ようやく制定されることとなりました。未だに障がいを持っている人たちへの虐待が後を絶たなかったり、当事者に対しての理解が十分な現状があり、これを法律で定めないと人権や尊厳が守られない現実を悲しくも思いました。

「もし自分だったら」「もし家族だったら」と相手の立場で他人を思いやる視点があれば、全ての人が当たり前に安心して暮らせる社会になることでしょう。まずは施設に持ち帰り、職員やご家族の方々に知ってもらうことから始めたいと思います。

しらゆりの園見学及び
沖縄県在宅褥瘡セミナーを受講して

養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園

介護員 古見 嘉浩

職員7名で2月22日に施設見学、23日に沖縄県在宅褥瘡セミナーを受講しました。

しらゆりの園見学では最初に運営課長より講話があり、園の取り組みを紹介してもらいました。竹内孝仁先生の科学的介護理論、『水・めし・クソ・運動』を基礎的ケアと位置付け自立支援介護サービスに取り組んでいるとのことでした。内容は、水分1日1500ml、

食事は常食、排泄はおむつ下剤無しで拘縮の進んだ利用者でも座位による自然排便を徹底、運動は歩行とパワーリハビリで眠っている筋肉、神経細胞を呼び起こす、というものでした。

施設長自らセミナーに参加し、トップダウンで周知、全職員が同じ目標で取り組み『日中おむつゼロ』『胃ろうゼロ全員常食』を達成、45以上あった平均介護度は3.7になっていくとのことでした。取り組み達成にむけては職員採用時から教育に時間をかけ徹底指導していきたく思います。

食事風景見学で、食事介助職員が多く配置されていたこと、全利用者が靴を履き椅子に腰かけ食事していたことが印象に残りました。

沖縄県在宅褥瘡セミナーでは、原因や治療法、深化するポジションの講話があり、褥瘡予防は体圧とズレ、変形拘縮予防は姿勢と筋緊張を招かない、変形を増強させない為にはクッションの角度や位置を考慮する事、これを適切に行うには、利用者個々のアセスメントを怠らざうという事を学びました。

今回2つの研修を通して基礎的ケアの重要性を再認識すると共に、これまでの反省も踏まえ出来る事から再度取り組んで行きたいと思えます。



▲自立支援サービスについての講話風景

平成 25 年度 沖縄県社会福祉事業団事業計画

I 利用者に対する姿勢

(1) 人権の尊重

- ① 経営理念・経営方針等の周知
- ② 倫理教育の充実
- ③ 倫理綱領自己評価の実施及び倫理委員会機能の強化
- ④ 職員ヒヤリングの実施
- ⑤ 利用者同意の確実な実施
- ⑥ 苦情解決・相談体制の実効性ある運用
- ⑦ 個人情報保護体制の整備

(2) サービスの質の向上

- ① サービス提供方針の明文化、理解
- ② 標準的業務の確立
- ③ 個別支援計画等の策定及び理解、適切な記録
- ④ サービスの自己点検の実施
- ⑤ リスクマネジメントの充実
- ⑥ 利用者等からの意見聴取の充実
- ⑦ 第三者による評価の受審

(3) 社会、地域との関係の継続

- ① 地域でのサービスを支えるサービスの充実
- ② ボランティアの積極的活用
- ③ 施設機能の活用及び地域行事への参加支援

(4) 生活・ケア環境の向上

- ① 老朽施設の全面改築、より個別支援に近い環境の整備等
- ② 快適な生活環境の実現
- ③ 設備等の維持管理及び実効性ある防災訓練等の実施
- ④ 感染症対策の強化
- ⑤ 災害時の事業継続計画の整備

II 社会に対する姿勢

(1) 地域福祉の促進

- ① 地域に開かれた法人づくり
- ② 福祉に対する理解の促進
- ③ 地域の繋がりの構築

(2) 公益取組の促進

- ① 社会福祉法人に求められる役割の遂行

(3) 説明責任の徹底

- ① 法人・施設情報の提供
- ② 苦情・評価等の公表・説明
- ③ 情報管理の徹底
- ④ 家族等とのコミュニケーション

(4) 養成・社会福祉協議会等との連携・協力の促進

- ① 地域福祉計画等策定への参画
- ② 災害支援等への協力
- ③ 積極的な障害者雇用への取組

III 人材に対する姿勢

(1) 総合的な人材マネジメントの実現

- ① 経営理念・経営方針・経営目標の周知徹底
- ② 期待する職員像の明文化
- ③ 総合的な人材マネジメント体系の構築

(2) 職員処遇の向上

- ① 労務管理体制の構築
- ② 職員の安全と健康の確保
- ③ ワークライフバランスに配慮した職場環境の確保

(3) 働きがいのある職場

- ① 適正な仕事量と内容
- ② 公平・公正な人事制度の構築
- ③ コミュニケーションが取りやすい職場風土
- ④ 動機付けを意識した姿勢、取組

(4) 職員育成の充実

- ① 人材育成制度の構築
- ② キャリアパスの明確化
- ③ 研修計画の作成及び実施

IV マネジメントに対する姿勢

(1) 法令遵守の徹底

- ① ルールの明確化と適切な認識
- ② コンプライアンス体制の強化
- ③ コンプライアンス教育の徹底
- ④ 適正な報酬請求及び補助金等の取扱い

(2) 組織統治の確立

- ① 理事・監事・評議員の経営参画の強化
- ② 実績会議及び経営対策監会議の開催
- ③ 内部統制機能の強化

(3) 財務基盤の安定

- ① 養護老人ホームの在り方に関する検討
- ② 会計に関する知識の習得と適切な会計処理
- ③ 財務状況の把握と適正な収益の確保
- ④ コスト意識の醸成及び支出管理の強化
- ⑤ 未収金管理の強化

(4) 経営管理者の役割の遂行

- ① 経営理念等の明示
- ② 将来性・継続性を見通した経営管理
- ③ 次世代の育成
- ④ 責任を持った問題解決
- ⑤ 利害関係者との関係

平成 25 年度 資金収支予算書

(単位：千円)

	法 人 全 体			
	当年度 予算額 ①	前年度 予算額 ②	増 減 ①-②	
事業活動収支	事業活動収入	4,109,577	4,012,095	97,482
	事業活動支出	3,755,725	4,022,468	△266,743
	事業活動資金収支差額	353,852	△10,373	364,225
施設整備等収支	施設整備等収入	449,914	52,927	396,987
	施設整備等支出	1,051,772	306,190	745,582
	施設整備等資金収支差額	△601,858	△253,263	△348,595
その他の活動収支	その他の活動収入	504,055	584,073	△80,018
	その他の活動支出	300,000	440,000	△140,000
	その他の活動資金収支差額	204,055	144,073	59,982
当期資金収支差額	△43,951	△119,563	75,612	
前期末支払資金残高	668,145	787,708	△119,563	
当期末支払資金残高	624,194	668,145	△43,951	

注釈：繰入金収入・支出を省く

個別ケアに関わる
管理栄養士からの
アプローチ



「ハーフ食」について

養護・特別養護老人ホーム 名護厚生園

管理栄養士 屋比久 道子

高 齢者は、ちよつとした食欲不振から低栄養や脱水を起こしやすくそこから身体機能が低下し寝たきりや認知症の原因になることがあります。高齢者の栄養管理には食事摂取状況の把握は不可欠です。当園では、毎日の食事摂取量と月1回の体重測定に加え半年に1回行われる健康診断のデータを基に、平成22年5月より様々な理由で食事を摂ることが困難な方にハーフ食を提供しています。ハーフ食とは通常の食事を半分量に減らし不足分の栄養を補助食品で補えるようにした食事のことです。補助食品は、嚥下状態や嗜好を考慮しながら選択しています。ハーフ食の効果としては

①適正カロリー提供ができる。
②食事の全重量が少なくなるので「食べられない」という方の精神的負担の軽減と同時に、食べられなかったという満足感も得られる。③残飯・残菜量の減量。などがあげられます。現在利用者120名の内20名の方にハーフ食を提供しています。担当者会議で話し合いをし、状態が改善されたら随時通常の食事に戻しています。ハーフ食を提供する場合注意したいことは、補助食品に依存し過ぎないことです。食事摂取が少なければその原因を日々の生活の中から探り、気づいた事は多職種間で情報を共有し、利用者へ適切な対応をとることが、本当の意味での個別ケアへ繋がって行くと考えます。



▲普通食



▲ハーフ食

職員の語り

夏に向けて

障害者支援施設 北嶺学園

介護員 渡慶次 功



事業団での最初の赴任地がよみたん救護園から少した。よみたん救護園から少し行けば残波の海が広がっており、本格的にシュノーケリングを習ったのがこの時期で、海に潜りだすとまるで別の世界にいる様でそれまで体感したいと思いついた。近くの離島や本島の海に行つては自分で作った道具を使って、魚を獲つては水槽に入れていました。魚の海中での様子が水槽で垣間見え大変興味深く感動します。昼の様子と夜の様子は又違って、ベラの仲間は頭を横にして人間と同じ様に寝ます、変わった魚ではタツノオトシゴを水槽に入れたら、お腹から子供が親と同じ童形でいっぱい出てきた為、急いで海に帰りました。仕事で疲れて帰ってきても水槽を眺めていると癒されます。今は中断していますが、又再開できたらいいなと思います。

レッツボウリング

養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園

作業療法士 福地 政幸



ストライクを続ける爽快感からボウリングのめり込んで5年になりました。今では娯楽ではなくリーグを通して競技レベルで精進して

おります。約23m先のピンを倒す単純作業と思われませんが、競技となるとストライクを続ける為にレーン上のオイルの濃淡、ボールの選択、対戦相手のライン、果ては室温も考慮します。ゴルフ並みに奥が深く、メンタル力も求められるスポーツです。また3G投げた時の運動強度は約1kmのジョギングと同じことから、適度な運動・リフレッシュを目的として皆さんもボウリングを始めてみませんか。

癒しのフラダンス

養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園

看護師 荷川取 悦子



「アロハハ」何をやっても継続しない私だが、フラダンスを始めて8年目になります。週3回のレッスンは、日々の生活の中の嫌なこと、つらいことを全て忘れさせてくれる心安らぐ癒しの時間です。毎年夏になると宮古厚生園の納涼祭はもちろんのこと、地域のイベントに参加して花を添えており、仕事以上に忙しい(?)時期である。また、7月にムーンビーチで開催される全国大会は、私たちフラ・シスにとっては大きなイベントであり、その日のムーンビーチではちよつとしたハワイ気分を味わうことが出来ます。夢は本場ハワイでフラを踊ること。仕事のストレスをあまり感じないのは癒しのフラのおかげかもしれません。マハロ(ハワイ語で「感謝」)

定年退職にあたって

障害者支援施設及び福祉型障害児入所施設
あけぼの学園
児童養護施設 漲水学園



園長 仲間 貞教
昭和52年2月に事業団職員として採用されてから36年の歳月が経ちました。

漲水学園を皮切りに、八重山、読谷での単身赴任も経験しました。それぞれの勤務先では多くの利用者とのふれ合い、よき上司や先輩・同僚に支えられ定年の節目を迎えることができたことを心から感謝しています。

私にとって、定年時の勤務地になる漲水・あけぼの学園の増改築に携われたことは意義深く光栄であり、施設は入所者の良き居住環境になったと信じています。最後に事業団の充実発展を祈念申し上げ、これまでの皆様のご厚情に深く感謝いたします。

医療型障害児入所施設 沖縄療育園

主幹兼管理課長 新川 優



昭和51年12月に採用され36年間、事業団一筋に大過なく定年を迎えることができました。これまで足跡を振り返りますと療育園の看護助手でスタ

ートし、昭和53年に都屋の里の出納員に異動、6施設と事務局で25年出納業務に従事しました。平成15年に療育園で育成課長、平成17年に副園長で八重山厚生園に単身赴任し貴重な体験をさせて頂きました。平成19年に療育園に戻り副園長・管理課長で6年間従事し無事ゴールを迎えました。これまでに色々な職種の仕事に従事できたことは私の「人生の宝物」です。これも職場の上司や先輩、同僚の支えがあつてこそできたことだと思えます。ありがとうございます！

医療型障害児入所施設 沖縄療育園

看護師 兼城 洋子



具志川厚生園を経て、沖縄療育園で定年を迎えることになりました。8年足らずでしたが、以前勤めていた産婦人科の経験が厚生園で生かされたように思います。産科では生命の誕生、命の育み、感動。もちろん、すべての出産が望み通りでなく、人生の戦いのスタートとなる誕生も。厚生園では車椅子を自ら操作し食堂へ向かう御老人の後ろ姿に命の尊厳さえ感じました。

療育園においては、活動、訓練などを通して垣間見るあふれる笑顔と輝きに感激し、私自身もよく笑うようになったと思います。8年間お世話になり、大変ありがとうございました。

児童養護施設 漲水学園

保育士 本永 光子



「ありがとうございます！」思い返す日々のすべてにただ、感謝があるだけです。子供たちのやさしさに何

度助けて貰った事やら…。先輩の作った道筋にどれだけ歩きが容易かった事だろう…。同僚のチームワークに小さな勇気を携える事が出来た。まっすぐな瞳の子ども達から目をそらすまいと未熟な私が、定年を迎える最後まで勤める事が出来たのは、これらの思いに包まれていたから…。子ども達により良い成長を祈りながら歩いてきたこの34年の道はとても楽しかった。ありがとうございます。

養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園
看護師 小谷 良哲



昨年の正月からのカウンタダウンが終了します。沖縄療育園を皮切りに、名護厚生園・沖縄療育園・具志川厚生園と3施設を勤務し、それぞれの職場で上司の御指導や諸先輩・同僚に支えられ、無事節目を迎えることができたことを心から感謝いたします。

沖縄療育園では、園児の健気に頑張る姿に勇気と感動をもらい、厚生園では、やさしさと思いやりを学ぶことができ、

平成25年度 人事異動

私にとって大きな財産になりました。退職後は、今まで休んでいた野球（還暦の部）やゴルフに挑戦し、第2の人生を元気に楽しみたいと思っております。最後に事業団のさらなる発展と皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。長い間ありがとうございました。

事務局 総務課長 小橋川 務

沖繩療育園 事務局長 比嘉 憲次(具志川厚生園園長)

育成課長 花城 裕康 (昇任・よみたん救護園生活指導員)

漲水学園・あけぼの学園 園長 友利 勝政

北嶺学園 管理課長 中村 亜由美 (昇任 生活支援員)

名護厚生園 生活支援課長 屋良 利勝 (昇任 生活支援員)

具志川厚生園 園長 知花 進(昇任 副園長兼管理課長)

副園長兼管理課長 島仲 邦康 (事務局総務課長)

宮古厚生園 副園長兼管理課長 平良 吉昭

生活支援課長 川根 直美 (昇任 生活指導員)

() 内は前職場など

施設長 リレーエッセイ



養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園
園長 けだもり まこと
慶田盛 誠

島の恩恵

妻から、「あなたは文化、文化と言うけれど、自分で分かって話してるの？」と問われることがある。実は彼女は、「石垣市文化協会に属する「れつき」として文化人」で、私と言えば何の取り柄もない平凡な「ただの人」なのだ。

前置きが長くなったが、これは出身地小浜島の行事参加に際して、協力をお願いする私と気乗りしない妻の会話なのだ。

ご存知のとおり小浜島は、連続ドラマ「ちゅらさん」のお陰で一躍全国区となり、また大型リゾートやゴルフコースがある竹富町も有数の観光地へと様変わりしている。でも、私の原風景はひっそりと静かな小浜島であり、夜ともなると何処からか島フクロウが「ツククル〜♪ ツククル〜♪」、どこか寂しい鳴き声に癒されつつ眠りに付く。こんな穏やかさの一方で、祭りともなると銅鑼や三味楽曲に肝ワサーワサーし、衣装で着飾った人々が晴れやかで眩しく、賑やかな風景が蘇る。

こんな島で生を受け、大家族の中で幼少期を過ごしたからか、祭りの季節になると落ち着かず、心は自然に島に向いて仕事のやり繰りに全精力を注ぐこととな

る。そして時に望んだ役に充たると、島人ならではの幸福感に満たされる。それに引き替え衣装や弁当などの準備に忙しい妻は「何がそんなに？」と。だから説明のために大仰に「文化だ」と口に出してしまう。

因みに言うと、旧盆行事や結願祭、種子取祭などの行事は、国の重要無形民俗文化財に指定され、他に豊年祭も加わって、1年を通して祭りに参加できる喜びは、やはり小浜人ならではのものです。何にも代え難いこの島の恩恵を、小さな孫達にも味わってもらいたく、できるだけ行事に連れて行きたい。妻の協力を得つつ。



▲結願祭の様子

地域活動の紹介

地域住民との防災連絡会議について

養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園

副園長 友利 勝政

(現 漲水学園・あけぼの学園 園長)

2月20日に近隣の方々を招いて「地域住民との防災連絡会議」を開催しました。この会議は、施設が非常災害に遭遇した際利用者の安全確保等のため、家族会も含め近隣住民との協力体制を図るために開催しています。

今回は、夜間防災訓練の中で非常通報装置による近隣職員への通報・招集と合わせて、地域の防災協力員の班長からメンバーへの連絡を次々行い、連絡を受けた防災協力員は施設に駆けつけるという非常時の連絡体制を想定した訓練として行いました。

訓練終了後に「地域住民との防災連絡会議」を開催し、訓練に参加された家族会・地域の方々と今回の防災訓練について意見交換を行なうとともに、交流を深めることもできました。

今後も更に会議の中で協議した内容を施設の防災管理に役立て、地域との協力関係を強化していきたいと思えます。

茶道 (裏千家) ボランティア

障害者支援施設 都屋の里

介護員 野原 志乃

2月28日(木)にボランティアで茶道(裏千家)の先生方による茶道についての歴史、作法等の説明や立ち居振る舞いのデモンストレーションを当施設パレットホールの畳間で見学する機会を得ました。

利用者も本格的な茶道の作法に接する事は初めての経験の方がほとんどで、真剣に見聞きしている様子が窺えました。デモンストレーションの後はお茶とお菓子を頂きました。お菓子の種類は2種類あり、生菓子とらくがんで「苦い」「おいしい」「おかわり」と言う声も聞かれ、満足そうな表情が見られました。

日本の伝統文化に触れ貴重な時間を過ごす事ができ、利用者を始め職員一同、良い経験になりました。

茶道の先生方、貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございます。



施設
だより

開園記念即売会

障害者支援施設 あけぼの学園

生活支援員 宮里 幸代
みやざと ゆきよ

2月1日は、あけぼの学園の開園36周年記念日でした。今年も、開園日を週末にすることで、広く参加をよびかけたことし、2月9日土曜日に記念行事を行いました。そのため、利用者をはじめ、子どもたちの家族や地域の皆さんの参加で多くの賑わいを見せました。

即売会に向けて、就労支援継続B型部門では、昨年からの野菜や花の苗を量産してがんばりました。一生懸命育ててきた野菜が売れていく様子を間近にみて、利用者の皆さんも嬉しそうにしていました。

また、生活介護班では、日々の活動の中で取り組んできた手芸作品を展示販売することで、自信を持ってさらなる意欲を刺激された様子がありました。自分が作ったものを家族に買ってもらう満足そうにしていました。子どもたちも、当日の販売やレクコーナーの手伝いなどを通して、地域の皆さんとの交流を楽しんでいました。



小作品展
展示即売会・作品

救護施設 よみたん救護園

管理課長 名嘉 克文
なつか かつむ

平成24年9月24日～28日の五日間、読谷村ファーマーズマーケットゆんた市場にて、当園にて初めての取組として、小作品展を開催しました。

日頃、作業支援の中で制作した牛乳パック椅子、小物入れ等の手芸作品、また、陶芸皿、鉢、シーサー等を展示して、地域の方へ当園の作業支援の成果を見て頂くとうと企画しました。さらに、毎年参加している読谷祭りが、今年もノロウィルス感染により不参加となったため、それに代わる展示即売会を2月20日(水)読谷村役場玄関側にて開催し、地域の方へ沢山の作品を買って頂きました。

当日は利用者も販売を担当し、作業支援への意欲を喚起する場ともなりました。

施設
だより



施設
だより

収穫祭

婦人保護施設 うるま婦人寮

生活指導員 町田 宗広
まちだ むねひろ

2月27日「収穫祭」を行いました。当日は、雨天の為、かっぱを着用し園芸講師の牧志先生の指導の下、寮の小さな畑で実ったキャベツ、人参、じゃがいも、ブロッコリーを収穫しました。収穫後は改築した新しい調理室で野菜をたっぷり使った特製のお好み焼きを作りました。

寮の野菜は無農薬ですが、今年は虫が付かず形が良く大きく成長した野菜を収穫することが出来ました。その実りと指導頂いた牧志先生に感謝し、先生にも試食に参加願ひ、野菜の旨みがぎゅっと詰まったお好み焼きと一緒に味わうことが出来ました。取れた野菜は、とても新鮮で自分たちが育てた野菜は、格別おいしかった。又、作りたいとの感想が聞かれ充実した収穫祭となりました。



木下大サーカス見学

養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園

生活相談員 奥間 安洋
おくま やすひろ

2月23日、木下大サーカスの見学を行いました。

サーカスが開演すると、観客席は満席の状態でした。会場は暗闇で、中央だけスポットライトで照らされ演技を行うサーカス劇団員や、滑稽な演技をするピエロを見て、楽しそうに喜ぶ利用者の姿が見られました。

動物部門では、シマウマ演技の他、キリンのエサやりがありました。サーカス劇団員が会場内から三名ほど選んだ観客の中に、いつも物静かな利用者が選ばれ、その利用者は手を高く上げて、ここぞとばかりにアピールしていました。キリンの大きな顔と大量のよだれでエサを上手くあげる事ができず、職員と一緒にバナナのエサやりを成功させ、利用者からは、満面の笑顔があふれていました。

その後も、バイクショー・ライオンの猛獣ショーなどあつという間の2時間半でした。帰路、車内ではサーカスの話題で持ちきり状態、興奮さめやらず無事に帰園いたしました。

施設
だより

